

議会報告会 質疑応答概要

質問項目	要旨
清掃工場 ごみ問題	Q 新清掃工場建設の時点で余熱利用施設の話があったが、その後の経過がわからない。お年寄りが喜んでゆったり体を休められる場所が不足していると痛切に感じるが、計画を進めているのか。
	A 新清掃工場の付帯施設については、土地の問題等で遅れているが、若い人から高齢者までくつろげる施設をつくる予定である。
	Q 新清掃工場の焼却炉事故は技術的な問題で再び起こる心配があるため、もう一度きちんと業者と話し合い、事故が再発しないよう進めてほしい。また、ごみの量を減らすリサイクルについて、市全体のキャンペーンとして行ったらどうか。
	A 焼却炉の事故は、ごみの量が多過ぎたこと、また操作ミスも加わって起こったが、今後はリサイクルを行い、ごみを1トンでも2トンでも少なくするよう議会としても働きかけていきたい。
	Q ごみ問題について、自治会長は市の非常勤職員となっていることから、もっと意識を持つべきであり、また市議会がバックアップしなければならない。
	A リサイクルをこれからしっかり進めるよう、議会として行政に伝える。
	Q ごみの減量化は、リサイクルよりも本来はリデュースであり、一番良い例が千葉市である。成田市ももう少し減量化して、業者がごみを増やすならば、今の10倍の料金にすればよい。
	A リサイクルを進めて、業者に対しても抜き打ちの検査をするように今進めている。
空 港	Q 空港問題について、成田が地盤沈下するのを防ぐため、やはり24時間空港にすべきである。また、騒音地区からの移転も、成田市が周辺地区と協力、援助をしながら長期計画で進めていかないといけない。
	A 空港対策特別委員会でも、選んでもらえる空港にするためには何を行えばいいのか考えていかなくてはならないという議論が進んでいる。24時間空港については、貴重な意見として聞かせていただく。移転については要望が極力かなえられる方策の議論をしているところである。
	Q 空港のアクセス問題について、都心から遠くて高いため、もう少し時間を縮めて、安くなる方法があるのか研究してほしい。
	A アクセス問題では、都心直結線について国で検討しているところである。また、現在は日暮里まで36分でスカイライナーを結んでいるが、周知していかなければいけないと考えている。
	Q カーフェリーの弾力的運用の実施状況は。
A 532件申請され、114件実施されている。事由としては、出発地空港での遅延、他空港への一時退避による遅延、玉突きによる遅延、成田への引き返し、やむを得ない理由による遅延がある。具体的理由では、急病人の発生が9件、悪天候が79件、滑走路閉鎖や空域使用制限によるものが22件、その他（安全阻害行為等）で4件、合計114件となっている。	

質問項目	要旨
空 港	Q 久住地区、下総地区で落下物の危険による希望移転の要望がある。市民を代表する議会で大いに研究を進めていただきたいが、見解は。
	A 特別委員会では、騒音下住民の不安を取り除くこと、中でも落下物の問題が最も大きな課題だと考えている。落下物による移転は、現行法上はできないが、議会から執行部に提案できることを、委員会を中心に議員全員で知恵を絞っており、いろいろな角度から国、県、航空会社に申し入れをしていきたい。
	Q 空港をもつ成田ならではの、国家戦略特区としての展開、展望は。
	A エアポート都市構想を成田市として提案しており、議会でもできる限り空港に関する提案をしたいと考えている。市民の皆様からもアイデアがあれば、特別委員会でも、執行部にでも構わないのでぜひともいただきたい。
医学部関係	Q 医学部設置に関して、成田市の進め方が非常に拙速であり、ほとんどの市民の方が知らない。どれだけの補助が行われるのかもわからない。特別委員会でどのような意見があったか教えてほしい。
	A 医学部設置に関する特別委員会としても、進め方が拙速であることは執行部に指摘してきた。医学部の誘致については、小泉市長の公約であり、議会でもほとんどの会派が賛成してきた経緯がある。予算については、各議員や会派で出す広報、市の広報でも周知していたが、市民の皆様への広報が足りないようなので、きちんと周知をするよう執行部にも申し入れる。なお、委員会での主な質疑は以下の通りである。 Q、「医学部用地に公津の杜駅前の一等地を用意しなければならない理由は」 A、「医学部の場所の選定に当たっては、看護学部、保健医療学部との連携を考え、すぐ隣の土地がふさわしいと考えた」 Q、「今後もし国際医療福祉大学の医学部設置が難しいという判断に至った場合は医療系大学の土地購入と同様に特約をつける考えは」 A、「医学部ができない場合には土地は京成電鉄に買い戻してもらう特約をつけたいと考えている」 Q、「国の公募による事業者が決まっていない段階で契約には大学の名前が入っているが、国際医療福祉大学である理由は何か」 A、「国家戦略特区の共同提案者である国際医療福祉大学が最有力と考えている。今後、別の事業者が選ばれた場合は用地を含めて仕切り直しになるが、今回取得する土地に関しては、あくまでも国際医療福祉大学が事業者となった場合を前提に置いた契約書となっている」 Q、「どのような検討を行って無償貸与となったのか」 A、「地方自治体が大学を誘致する際は用地を用意し、大学に寄附する形が一般的だが、近年は大学が撤退する例もあるため、万が一撤退した場合でもその後の有効活用も十分に考えられることから無償貸与とした。また、用地を借地とする場合は20年以上使用できることを条件としているが、より安定した大学運営をしてもらうため、30年の期間を設定した」
	Q 大学の用地は30年間の無償貸付けだが、仮に医学部が大きな経営不振になった場合でも、市が赤字補填するようなことは絶対にあってはならないと思う。その点も含めて今後対応していかなくてはいけないのではないか。
	A 医学部がもし経営不振に陥って病院が立ち行かなくなったときでも、市は応援しないと委員会の中ではっきりと断言している。そして、それを了として可決したという経緯がある。

質問項目		要旨
医学部関係	Q	医学部用地の購入にあたっては、京成電鉄と市当局だけではなく、第三者機関にも判断してもらったのか。
	A	特別委員会で全く同じ質問をしているが、他の機関への鑑定は依頼していない。最終的に双方の鑑定額の間をとったとのことであり、売りたいほうは高く売りたい、買いたいほうは安く買いたいとの考えが働いた結果だと思っている。
	Q	国際医療福祉大学の看護学部と保健医療学部の学科の中に、手話に関するカリキュラムを組み入れてもらうよう申し入れてほしい。
	A	カリキュラムの検討について申し入れることは可能なため、貴重なご意見としていただいて、必ず大学に申し伝えたいと思う。
	Q	国際医療福祉大学が開学した場合の運営のスタンスは。
	A	優秀な人材を募るため、授業料は日本の私立大学で最低を目指している。看護師、理学療法士、臨床検査技師などがチームを組んで、一体となった教育を施すため、併設の看護学部と連携した授業形態をとる。訪日外国人に対応できる医師を養成し、外国人留学生は帰国後のリーダーを養成する。日本人の定員が120名であり、県の統計によると地元への定着率が50%を超えているので、毎年約60名の医師が千葉県に定着すると考えられる。近隣の病院など地域との連携の中で、地域医療を本当に考えた医師を養成していくとのことである。
	Q	医学部の設置に関して、県と協力して80億円の助成を行うと聞いている。もし大学が破綻して一方的な撤退があった場合に、現在決定しているのは、更地で用地を返却することだけで、用意したお金に関してどうするか討議しているのか。
A	通常の大学誘致の場合は土地は無償譲渡が一般的だが、今回は公津の杜駅前の貴重な土地でもあり、撤退時には返還を求められるように、特別委員会で無償譲渡を止めさせ、無償貸与とした。病院や大学が撤退するような事態については、執行部の説明で可能性は少ないと判断した。	
花の回廊事業	Q	花の回廊事業について、整備状況は。
	A	取香川の全日空ホテルまでは管轄はNAAであり、川の両脇に桜の木を植えてオーナー制で進めている。全日空ホテルから根木名川までは県の管轄であり、堤防の管理の関係で植栽の許可がおりないため、堤防隣接地へ桜の植栽をしたり、休憩施設の整備を進めている。
大栄地区小学校跡地利用	Q	大栄地区は5つの小学校が統合されるが、跡地利用の考えは。
	A	現在、統合推進委員会をつくり、統合小学校の早期促進と、それに伴った道路整備等も含め意見を伺っている。統合推進委員会には区長会長も入っていただいております、その中で話を進めている。

質問項目	要旨
動物愛護	Q 千葉県は犬猫殺処分ゼロの目標を掲げているが、成田市の実績は。
	<p>A 市議会ホームページで回答します。</p> <p>【執行部からの回答】 成田市としては、千葉県動物愛護センター等が実施する譲渡会等は殺処分ゼロを目指す重要な施策と考え、広報なりたや市のホームページを活用しPRに努めている。また、地域住民が主体となり、ボランティアおよび行政が協働して飼い主のいない猫を管理する地域猫活動を千葉県が推進しているため、成田市としても、この地域猫活動の周知を図るとともに、地域の皆様と協力して飼い主のいない猫の減少に取り組んでいく。更に、児童などが動物の生命を尊び、慈しむ心を養うため、動物愛護に関するDVDを市内25の小学校に配布することや、千葉県動物愛護センターが実施する出張動物愛護教室を開催するなど、動物愛護の普及啓発に努めている。</p>
議員活動	Q 市民からは普段、議員の方々の“顔が見えない”と言われるが、日頃どのような対応をとり、またとるべきと考えるのか。
	<p>A 議員個々で地域の団体で活動したり、会派でニュースを出すなど努力しているが、どうしても議会への傍聴や意見を求める形になっている。今回初めて議会報告会を開催したが、今後、議会として地域に出向いて、意見交換をし、要望などを持ち帰って当局に伝える、また質問していくようにしたい。これからも市民の方々と距離が縮まる方法を研究していきたい。</p>

議会報告会 要望概要

項目	要旨
成田市場	TPPで、これから特に農村部の方が大変かと思うが、成田の農産物をブランド化し、東南アジアへ売り込むぐらいの積極性を持ってほしい。
市民協働	市役所も議会も協働と言いながら、市民に何の協働を求めるのかわからない。具体的にどうしていくかということを進めてもらいたい。
パブリックコメント	パブリックコメントは、市民が非常に関心を持っていることなので、重要視してほしい。
生涯スポーツ	大栄野球場を有効活用し、稼働率を上げてほしい。
空 港	24時間空港にしたほうがよいとの意見があったが、現在の時間から発着時間を延長することは絶対に反対であり、議会でも十分考えてほしい。
空 港	成田空港の軍事利用について、その議会報告なり説明がなかったのをとても残念に思っている。地方自治体として、どのような見解を持つのか、周辺自治体とどのような話を進めていくのか、広く住民の声を集約して議会として住民に安全と安心を与えるよう議論を尽くしてほしい。
空 港	今後、第3滑走路ができれば、ニュータウンだけではなく、大栄地区の地域振興を議会として大いに検討を進めてほしい。
防 犯	防災行政無線の放送が、飛行機の音とかぶり、協力しようと思っても、正確な情報がわからない。タイミングを工夫できないか。
医学部関係	医学部、付属病院が設置されるなら、バイオセーフティーレベル3に対応できる高度医療施設等もつくっていただきたい。
医学部関係	誘致に多額の補助金を出す以上、契約の段階で地域医療を最優先でお願いしたい。立派な医療ツーリズム専門の病院ができたが、市民は見るだけにならないように、議会から当局への対応をお願いしたい。
T P P	成田は県下第3位の米の出荷量である。空港だけではなく、農業も均衡ある発展が必要なことを忘れずに検討してほしい。私たちもただ単にTPP反対と言っているわけではなく研究している。この機会にTPP問題を議員全員で検討して対処していただきたい。
農 業	市長が、看護学部ができる時に、一般の農業予算を削らないと言ったが、現実には削っている。4年前から半分も補助がなくなり、農家をやめる人もふえている。医学部誘致に何十億も使うお金があるなら、農業予算を減らさず、逆に上げるべき。農家では、現在米は赤字である。農家に対する補助を議会でも検討してもらいたい。